事業報告会（令和８年６月６日）　参加者意見まとめ

令和７年度事業報告会では、参加者の皆様から、報徳食品支援センターの活動に対する感謝、食品支援への期待、支援団体間の連携、今後の事業継続に関する多くの意見が寄せられました。

1. 活動への感謝・評価

参加者からは、「感謝しかありません」「本当にありがたい」「いつまでも支援が続いてほしい」といった声が多く寄せられました。食品の提供を受ける団体や家庭にとって、報徳食品支援センターの活動が大きな支えとなっていることがうかがえます。

また、食品を受け取った子どもたちや家庭の笑顔、安心感につながっているとの意見もあり、単に食品を届けるだけでなく、地域の中で孤立を防ぎ、支援を必要とする人々に寄り添う活動として評価されています。

2. 食品支援に関する意見・要望

食品支援については、保存食や常温食品だけでなく、日常の食卓で使いやすい食品、冷凍食品、冷蔵食品への期待が見られました。特に、調理を行うこども食堂や地域食堂にとって、冷凍食品や食材の提供は大変ありがたいとの声がありました。

一方で、アレルギーへの配慮、食品の種類、提供量、配布の継続性などについても意見が出されました。今後は、支援先の状況や利用者のニーズを把握しながら、より使いやすく、必要とされる食品を届ける工夫が求められています。

3. 子ども・家庭への支援

子ども食堂、ひとり親家庭、困窮家庭などへの支援について、継続を望む声が多く寄せられました。参加者からは、食品支援が子どもたちの生活を支えるだけでなく、家庭の不安を和らげる役割を果たしているとの意見がありました。

特に、物価高騰の影響により、食費の負担が重くなっている家庭にとって、食品支援は生活を支える重要な取り組みとなっています。今後も、支援を必要とする子どもや家庭に確実に食品を届ける仕組みを継続していくことが期待されています。

4. 支援団体間の連携・情報共有

参加者からは、支援団体同士のつながりや情報共有の重要性についても意見が寄せられました。食品を提供する側、受け取る側、配布する側が互いに状況を共有し、地域全体で支援の輪を広げていくことが必要であるとの認識が示されました。

また、行政、社会福祉協議会、地域の団体、企業、学校など、多様な関係者が連携することで、より多くの人に支援を届けられる可能性があります。報徳食品支援センターには、食品の受入れと配布だけでなく、地域の支援団体をつなぐ役割も期待されています。

5. 今後の活動への期待

今後の活動については、食品支援の継続、支援対象の拡大、活動内容の周知、支援者の増加を期待する声がありました。報徳食品支援センターの活動をさらに多くの人に知ってもらい、地域全体で支える仕組みを広げていくことが求められています。

また、参加者の意見からは、現在の活動が地域にとって必要不可欠なものになりつつあることが感じられます。今後も、食品ロス削減と生活支援を結びつけ、支援を必要とする人に必要な食品を届ける「食のセーフティーネット」として、活動を継続・発展させていくことが重要です。

まとめ

今回寄せられた意見から、報徳食品支援センターの活動は、食品を届けるだけでなく、子どもや家庭、地域の支援団体に安心とつながりを届ける活動として受け止められていることが分かりました。

参加者からの感謝や期待の声を今後の活動に生かし、食品支援の質を高めるとともに、地域の関係機関・団体との連携をさらに深め、誰一人取り残さない食の支援体制づくりを進めていきます。